

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.55

落ちない→5か9



今年1月、南太平洋のトンガ諸島で起きた海底火山の大規模噴火による広い範囲での潮位の変動(津波)により、カキ養殖が盛んな浦村町で養殖いかだが流され、カキが海中に落ちるなど大きな被害がありました。変動幅は60cmで、2000台近くあるいかだのうち約400台が乗り上げたり、壊れたり、ロープがからまつたりしたそうです。



いかだが流された様子

そんな中、地元のある養殖事業者は考えました。「いかだが流されても残ったカキはたくさんある。受験シーズンを前に、落ちなかったカキを」

根性ガキとしてポジティブに発信できないか。つまり、ピンチを逆手に取って短期間にコンセプトをまとめ、ラベルを作り、見事予定量を販売しました。鳥羽磯部漁協によると、約4932万円の被害が報告されています。落ちないカキの売り上げはトータルの被害額には遠く及ばない数十万円でしたが、ピンチにあつて一筋の光明が差したのではないかと思いました。



落ちない牡蠣のオリジナルイラスト。鳥羽市社会福祉協議会では公用車にラッピングして応援しています。

ちよつと視点は違うのですが、こんなことも思い出しました。私が市議をやっていたこ

ろ、兵庫県の小野市を視察する機会がありました。そこを訪れるまで知らなかったのですが、小野市の特産品はそろばん。そして目を引いたのが、そろばんをひとひねりしたお守りを作っていたことです。5玉は下枠に固定、下の4個の玉はひとまとめに連結してあり動くので「5か9」しか出ないようになっています。つまり、「合格」しかないというわけです。



「落ちないカキ」のピンチをチャンスにの発想とはまた違った、私が好きな面白さです。どちらにも共通しているのは、これに至るまでのエピソードやからくりを、人に説明したくなることです。

受験の話が出たので、ここで少しPRさせていたのですが、令和5年度の鳥羽市職員採用試験がまもなく始まります。鳥羽市で活躍いただける仲間を探しています。子どもさん、お孫さんにもぜひお声かけください。

イコールパートナーシップ

Vol.145



選択

市民課人権・市民交流係

☎ 25 1126

朝、通学風景を見ると色とりどりのランドセルを見かけるようになりました。SDGsの17の目標のうち5番目の目標として「ジェンダー平等を実現しよう」があります。「ジェンダー」とは「社会的・文化的性別」とも言われ、「男性らしい・女性らしい」とされている役割や行動、考え方や見た目のことを指します。「男の子はブルー、女の子はピンク」「お父さんは仕事、お母さんは家事」というように、性別によるイメージを無意識に抱くことがあります。そのイメージにとらわれず、さまざまな活動ができるように社会の制度やあり方を考える必要があります。

現在鳥羽市では、鳥羽東中学校と加茂中学校で統一の標準制服を採用しており、性別を問わず、ズボンかスカートを選択すること

ができるようになりました。「男性だから・女性だから、こつするのが当たり前」というイメージが強く、そのイメージと異なる場合、違和感を抱くことがあるかもしれません。しかしそれは、本人がそれぞれの個性や価値観で選択したのかもしれないし、さまざまな状況で選択せざるをえなかったのかも知れません。相手の立場を想像し、選択や生き方を尊重して、ジェンダーのイメージにとられない「自分らしく生きられる社会」を目指すことが、ジェンダー平等の実現につながるのです。

毎年6月23日から29日は男女共同参画週間です。「男性だから・女性だから」ではなく「私だから・あなただから」と考える社会にするにはどうすればいいか、改めて考えてみませんか。